



6月の松下館

巻頭言

セミナーハウス開館50周年を迎えて — 思い出と未来 —

放送大学学園理事長 早稲田大学学事顧問 白井 克彦



大学教員の現役からはなれて、学生達と泊り込んでセミナーを開くことはなくなった。昼間のセミナーは、大学キャンパスとさほど変わるものではないが、たっぶり時間が使えるので教師にとってはやりがいがあるが、学生達にすれば、自分の全てをさらけ出して頑張らなければならないから、楽しいというより苦行かもしれない。一日のゼミが終ると厳しいやりとりの揚句、ショックでその日の夕食の食欲を失う学生もよく見られたものだった。発表を前にした学生の寝不足と緊張の妙な顔は少し可愛い。

八王子セミナーハウスでは、学会関係や大学関係者の研究会で集まるが多かったように思う。とりわけ、大学改革に関する研究会や講習会の類は、数多く現在も続けられていることと思う。私が参加したのは、大学教員の仲間に入ることを許された講師の頃からだと思う。セミナーハウスに到着してみると、吉阪隆正先生の設計された大地に抗を打ち込むというイメージそのものの建物が存在していた。その気迫に圧倒されながらも、下の階のスペースが狭くなるのは勿体ないなどとブツブツ言っていたのを思い出す。吉阪先生は学園紛争時、早稲田大学理工学部で学部長を勤められ、学生達に独特な対応をされていた。その後、大学を囲む環境は、自由化の大きな流れとなり、設置基準の大綱化や国立大学法人化などが進行していった。大学教育や経営の改革について、多くの研究会、セミナーが催された。八王子セミナーハウスを場にした、様々な会合とその時の参加者達の熱気は、今も印象に深く残っている。当時、理工学部のカリキュラムや実験教育の全面的改革を担当しており、私にとっては大変意義深いセミナーに参加できたように思う。もう一昔前のことで、具体的な内容は思い出せない。夜に一杯呑みながら、異分野の先生方の話をうかがうのが大変刺激的であった。この伝統はセミナーハウスの重要な役割として、一層強化されるべきものである。

ICTの進展は、大学教育にも大きな影響をもたらした

セミナーハウスニュース No.188 主な内容

巻頭言	1
法人ニュース	2・3
SPA通信	4
ご利用状況・開館50周年記念事業寄附金状況	5
千人会通信・2015年度開催セミナーのご案内	6
2014年度開催セミナー報告	7
スタッフ紹介・館長室から	8

ている。一つは、インターネットを通じた大学の講義のオープン化である。米国で古くはMITの始めたOCW (Open Course Wave)、数年前からMOOC (Massive Open Online Courses)、さらにはEU諸国でも授業コンテンツの公開が急速に進められている。アジア諸国でも開始され、日本ではJMOOCが一年程前から配信を始めている。今や、世界中で質の高い大学教育のコンテンツが基本的に無料で利用できるようになってきた。世界中で大学教育の環境に恵まれない人々に学ぶ機会を作る他にも、大学は姿を外に見せて、PRにつなげるなど色々な展開が期待されている。これを既存の大学の存立にとって脅威と受取る向きもあるが、これを活用し、従来型の教育方法を進化させるのに役立てようとする向きも多い。

このような動きは、八王子セミナーハウスの活動にも、やがて少なくない影響を与えると思う。JMOOCではネット上の講義を受講した上で、学生達に集合してもらいセミナーを開く反転授業というのが盛んである。セミナーハウスを新しい学習の場として様々な形式の反転セミナーをネットと合わせて実行することが可能であると思う。お互いに、新しいアイデアを出して活動を盛り上げていければと思う。

白井 克彦 (しらい かつひこ) プロフィール

(1939年9月24日生)

学歴

- 1963年 3月 早稲田大学第一理工学部卒業
- 1965年 3月 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了
- 1968年 3月 早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得満期退学

職歴

- 1965年 4月 早稲田大学第一理工学部助手
- 1968年 4月 早稲田大学理工学部専任講師
- 1970年 4月 早稲田大学助教授
- 1975年 4月 早稲田大学教授
- 1982年 4月 早稲田大学教務事務システム開発準備室長
- 1992年 9月 早稲田大学理工学部教務主任
- 1994年 11月 早稲田大学教務部長兼国際交流センター所長
- 1998年 11月 早稲田大学常任理事
- 2002年 11月 早稲田大学総長
- 2010年 11月 早稲田大学学事顧問 (現職)
- 2011年 4月 放送大学学園理事長 (現職)
- 2015年 6月 大学セミナーハウス常務理事 (現職)

専門は知能情報学、工学博士

第14回理事会報告(平成26年度第2回)

- ◎開館50周年記念事業資金計画固まる：借入金1億8000万円
- ◎平成27年度事業計画骨子検討：eラーニングの活用を

第14回(平成26年度第2回)理事会が、平成26年11月4日(火)午後4時—7時40分の間、桜美林大学四谷キャンパスにおいて、出席理事8名(理事総数10名)、出席監事1名の参加のもと、開催され、全議案滞りなく承認された。

議案および概要は以下のとおり。

- ①開館50周年記念事業資金計画について
資金計画は、多摩信用金庫からの借入金1億8,000万円余、寄附金の予定額2,000万円、合計2億円の規模とすることになった。支払い計画は、さくら館の長期借入金の返済が終わるまでは、金利のみを支払うことで、年度ごとの返済額を抑えることとした。なお、土地・建物に抵当権を設定することについても了解された。
- ②平成27年度事業計画骨子について
各理事から、就職セミナーの開催、リメディアル教育や体育会系学生の基礎学力向上のためのeラーニングの展開、ベビーシッターの受け入れ態勢等についての意見が出、次年度事業計画策定の中で検討することとした。

第15回理事会報告(平成26年度第3回)

- ◎平成27年度事業計画決まる：食堂棟は来年完成予定
- ◎平成27年度予算決まる

第15回(平成26年度第3回)理事会が、平成27年3月11日(水)午後4時—6時30分の間、桜美林大学四谷キャンパスにおいて、出席理事6名(理事総数10名)で開催され、全議案滞りなく承認された。

議案および概要は以下の通り。

- ①土地の取得について
平成26年5月の理事会で、新食堂棟の建設が承認され、建設業者、食堂運業者も決まり資金のめども立ち、設計協議に入ったが、建築確認申請の事前審査の中で、本館下の土地が八王子市の所有のままであること、市道155号線の移管が未処理であること、多目的広場開発の際の隣接地境界が未確定のままであることなど、これまでの長年の課題が堆積していることが判明、八王子市から、本館下の土地の購入を速やかに言い、ほかの案件は年次計画を立てて解決するようにとの指導を受けた。そこで、食堂棟建設の前提となる土地の購入(300万円)を行うことを提案、理事会の承認を得た。
- ②平成27年度事業計画について
平成27年度事業計画の骨子は、食堂棟の建設(平成27年度着工、平成28年度中の竣工)、未解決の土地・境界線の処理を行う、記念式典は食堂棟の竣工時に行う、eラーニングの活用、SPAの本格稼働、宿泊者数32,500名を目指す、会費問題を検討する等で、審議の結果、承認された。
- ③平成27年度予算について
平成27年度予算についても、上記新たな事業を予算化し、全理事の承認を得た。(右記予算概要を参照)
- ④事務組織規程の一部改正について
総合戦略会議及び総合戦略グループを廃止し、所掌事務を他のグループに分担、課長会議を明文化する規定改正について承認を得た。

平成27年度 収支予算書
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

単位千円

科目	本年度予算	前年度予算	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	5	5	0
特定資産運用益	5	5	0
事業収益	187,161	186,398	763
受取補助金等収益	0	200	△200
受取会費・寄附金収益	56,530	54,510	2,020
雑収益	5	5	0
経常収益計	243,706	241,123	2,583
(2) 経常費用			
事業費	231,392	217,169	14,223
管理費	13,418	11,157	2,261
経常費用計	244,810	228,326	16,484
評価損益等調整前当期経常増減額	△1,104	12,797	△13,901
当期経常増減額	△1,104	12,797	△13,901
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
一般正味財産期首残高	879,146	866,349	12,797
一般正味財産期末残高	878,042	879,146	△1,104
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	3,500	12,000	△8,500
一般正味財産への振替額	11,400	6,990	4,410
当期指定正味財産増減額	△7,900	5,010	△12,910
指定正味財産期首残高	10,010	5,000	5,010
指定正味財産期末残高	2,110	10,010	△7,900
Ⅲ 正味財産期末残高	880,152	889,156	△9,004

第16回理事会報告(平成27年度第1回)

- ◎平成26年度事業報告承認
- ◎平成26年度決算承認

第16回(平成27年度第1回)理事会が、平成27年5月19日に、桜美林大学四谷キャンパスにおいて、出席理事7名(理事総数10名)の出席を得て開催され、全議案が承認された。

議案および概要は次の通り。

- ①平成26年度事業報告について
平成26年度は、開館50周年記念事業実施経過(講堂の防音化、空調設備の改善、SPAの稼働)、宿泊研修支援事業の向上(年間宿泊者数がここ3年続けて増えている)、主催研修支援事業の充実(教員免許状更新講習参加者の増加をはじめ参加者数が増)、留学生支援事業の展開(短期宿泊希望者が多い)、法人事業の強化(規程の整備)を基本として、事業活動を行った。特に、開館50周年記念事業の準備作業を中心に展開をしてきたが、建築確認申請の事前審査の過程で、土地の所有、境界線、道路、水路、土地の分筆等過去から積み残しの課題が多々出てきて、その対応に追われてきたのも事実である。
事業報告は全会一致で承認された。
- ②平成26年度決算について
平成26年度決算について、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録を中心に報告があった。資産合計は11億7,500万円と昨年度より320万円の減(会費の減少)、負債合計は24,700万円と880万円の減となり、正味財産合計の増加は566万円にとどまったこと、正味財産増減計算書では、収入は事業収益の伸びが560万円に対し、受取会費690万円の減少が響き、経常収益が前年度に比べ69万円の減少となった。一方、経費は修繕費、管理委託費を中心に990万円弱の増加となり、正味財産を押し下げている。会費の減少、突発的修繕の増加、寄附金の伸び鈍化、建築確認に伴

う過去費用などがその要因である。ともあれ、公益法人3原則（収支相償、公益目的事業比率、遊休財産）に関してはクリアーしている。

③臨時理事会の開催について

理事・監事の任期終了に伴う、新理事の選出が、5月29日（金）の評議員会で決定することを受けて、新3役決定のための新理事会開催を6月3日（水）桜美林大学四谷キャンパスで行うことを決定した。

平成26年度 正味財産増減計算書

単位円

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,282	1,107	175
特定資産運用益	8,164	7,587	577
事業収益	185,223,886	179,617,519	5,606,367
受取補助金等収益	703,689	290,000	413,689
受取会費・寄附金収益	43,965,000	50,940,000	△ 6,975,000
雑収益	337,217	73,946	263,271
経常収益計	230,239,238	230,930,159	△ 690,921
(2) 経常費用			
事業費	218,028,606	207,231,186	10,797,420
管理費	9,051,369	9,966,682	△ 915,313
経常費用計	227,079,975	217,197,868	9,882,107
評価損益等調整前当期経常増減額	3,159,263	13,732,291	△ 10,573,028
当期経常増減額	3,159,263	13,732,291	△ 10,573,028
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	1	108,557	△ 108,556
当期経常外増減額	△ 1	△ 108,557	108,556
他会計振替額	0	0	0
一般正味財産期首残高	913,465,822	899,842,088	13,623,734
一般正味財産期末残高	916,625,084	913,465,822	3,159,262
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	2,505,000	7,350,000	△ 4,845,000
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	2,505,000	7,350,000	△ 4,845,000
指定正味財産期首残高	8,460,000	1,110,000	7,350,000
指定正味財産期末残高	10,965,000	8,460,000	2,505,000
III 正味財産期末残高	927,590,084	921,925,822	5,664,262

第8回評議員会報告（平成27年度第1回）

第8回（平成27年度第1回）評議員会が、平成27年5月29日（金）午後4時—6時の間、桜美林大学四谷キャンパスにおいて出席評議員11名（評議員総数16名）、理事長、館長、専務理事陪席のもとで開催された。

議案および報告事項は以下のとおり。

- ・議案：平成26年度事業報告について
 - ：平成26年度収支決算について
 - ：任期満了に伴う評議員の選任について
 - ：任期満了に伴う理事の選任について
 - ：任期満了に伴う監事の選任について
- ・報告：開館50周年記念事業の進捗状況報告
 - ：土地の購入について
 - ：執行役員業務報告

議案は全て滞りなく承認された。

承認された評議員、理事、監事は下表の通り。

評議員

大井 孝	(財) 国際教育振興会理事長
川島 堅二	恵泉女学園大学学長
小畑 秀文	国立高等専門学校機構理事長
篠田 節子	作家
高石 道明	信州大学元教授
福宮 賢一	明治大学学長
村田 雄二郎	東京大学大学院教授
山本 眞一	桜美林大学教授
鷺山 恭彦	東京学芸大学名誉教授

高祖 敏明	上智学院理事長
清家 篤	慶應義塾塾長
馬場 善久	創価大学学長
日比谷 潤子	国際基督教大学学長
ピーター・マッキヤグ	国際教養大学理事兼副学長
吉岡 知哉	立教大学総長
石森 孝志	八王子市市長

理事	
佐藤 東洋士	桜美林学園理事長・学園長
鈴木 康司	元中央大学学長
小川 哲生	明星学園副理事長
荻上 紘一	大妻女子大学学長
佐藤 和人	日本女子大学理事長・学長
仙波 憲一	青山学院大学学長
上野 淳	首都大学東京学長
白井 克彦	放送大学学園理事長
藤沼 宏一	一橋大学学長
外村 幸雄	中央大学元広報部長
新田 誠吾	法政大学副学長
監事	
沖永 佳史	帝京大学理事長・学長
光田 明正	桜美林大学孔子学院 名誉学長

第17回（臨時）理事会報告（平成27年度第2回）

- ◎理事長、館長、専務理事、常務理事決まる
- ◎執行役員の役割分担決まる

第17回（平成27年度第2回）理事会が平成27年6月3日（水）午後4時—6時の間、桜美林大学四谷キャンパスにおいて、出席理事8名（理事総数11名）、出席監事1名の参加のもと開催され、議案は滞りなく承認された。議案、報告は以下の通り。

議案：理事長、館長、専務理事及び常務理事の選出について

：執行役員の役割分担について

報告：平成27年度事業計画

：平成27年度予算

：開館50周年記念事業の進捗状況

：今後のスケジュール

(承認事項)

- 理事長 佐藤 東洋士（桜美林学園理事長・学園長）
- 館長 鈴木 康司（元中央大学学長、日仏会館評議員）
- 専務理事 外村 幸雄（中央大学元広報部長）
- 常務理事 白井 克彦（元早稲田大学総長、放送大学学園理事長）

館長

鈴木康司：開館50周年記念事業及びセミナー・留学生支援事業

専務理事

外村幸雄：総務、財務、広報、宿泊支援及び業務全般

常務理事

白井克彦：千人会、募金活動、会費問題



▲ 散歩道には”ホタルブクロ”のちょうちんが…

第2回 SPA ファシリテータ養成講習会 (初級コース) 2015年3月6日(金)～8日(日) 2泊3日

昨年10月の第1回に続く今回の講習は、PAプログラムの経験がない方を対象に開催された。受講者が一つのチームとしてアドベンチャーのプロセスを自らしっかりと体験してもらうことを通して、将来のSPAファシリテータとしての基本的な心得を学んでもらうことが目的。講習会には大学教員と職員、地域のスポーツクラブの指導者、スポーツを指導するNPO法人の職員ら15名(当法人のスタッフ2名も受講した)の方が参加された。

講習会では、大学セミナーハウスの目的と使命、大学セミナーハウスがいまなぜSPAに取り組んでいるか、今日の大学教育が抱えている課題、PAについて、SPAプログラムのねらい、SPAコースのLOP(セミナーハウス独自の手法手順)の一部を説明する一方で、チャレンジバイチョイス、フルバリューコントラクト、体験学習サイクルというPAの礎である哲学をアイスブレキング、イニシアティブゲーム、ローエレメントを使った活動と併せて体系的に学んでもらった。小雨が降り続く天候であったが、雨具を着ながら全員がすべてのエレメントを無事体験することができた。



▲ みんなで支えあえばきっと成功する!!

第3回 SPA ファシリテータ養成講習会 (中級コース) 2015年3月10日(火)～11日(水) 1泊2日

本講習は、PAJ主催のAP、ABC、SAS講習会を受講している指導経験が豊富な方を対象に1泊2日で実施された。PAの基礎知識は省き、SPAのエレメントの使い方に関するブラッシュアップ及びSPAの提唱する5つのC(Communicate, Create, Commit, Challenge, Consider)を中心に講習を実施した。受講者には、まずエレメントの標準的な手順・方法(Standard Operating Procedure)を正しく理解し、それに基づいて指導をしているかどうかのチェックをもらった。とりわけ、SPAコースのエレメントの使い方にかかわる「セットアップ及びプレゼンテーション」、「スポッティングおよびキャッチング」「安全知識」を確認したところ、意外な所に盲点があったり、思い違いがあったりした様子が見られた。長年の指導の中で知らず知らずのうちに自己流になっている部分が多いことに気づくよい機会となったとの感想が聞かれた。

2日間の講習を終えた中級コース終了者は無事、参加目的であるセミナーハウスのSPAファシリテータとして登録されることとなった。



▲ 最終日、SPAの指導者たちの誕生です!

SPA 体験セミナーの感想 桜美林大学3年生 BM学群有賀ゼミ 大坊 一世

今回は、有賀ゼミの活動の一環として、八王子下柚木にある、大学セミナーハウスに行っていました。正直、体を動かして、意識が高くなるセミナーと聞き、若干胡散臭いと思っていました。しかし実際全てのプログラムを終えたあとは非常に充実していて、参加して本当によかったと思いました。講師の鎌田さんはビジネススクール出身の方で、ビジネスに関する知識やノウハウを体を動かして体験するセミナーを研究している方でした。今回私が受けてきたセミナーの内容に関して要約すると、自分の中にある暗黙知を形式知に変換し、それを周囲や企業に与え、そしてその結果生まれた何らかの成果をまた自分の中に落とし込むという企業のナレッジマネジメントを体を動かすことで体感し、チームワークや、リーダーシップなどを養う、という内容でした。

特に印象に残った2つのプログラムを紹介します。

1つは室内で形式知や暗黙知とは何なのか、どのようにして、伝えられるのか、ということを使って体験するというものです。仕組みがわかれば簡単なことなのに、それが伝えられないという、非常にもどかしい思いをして、暗黙知を伝えるのが、如何に難しいのかを身をもって感じました。

もう1つは、体験プログラムの最後に行った、木のバズルを如何に早く組み立てるか、というものでした。初

めは、全員がバラバラでしたが、次第に方針を変えたり、役割を分担することで、チームとしての形を成していきました。その中でいくつか素晴らしい案が出てきて、その結果タイムを20分ほど縮めることに成功しました。今回受けたプログラム全てに共通していたことが、自分だけの能力や考えでは、課題は解決できないということでした。全員が自分の方法や考えを自分勝手に行っていることはチームは機能しないし、成果も上がらないということがとても実感できました。チームの中で自分の役割や出来ることを考えて、それを共有し、検討し、実行する。そういう方法を取れば課題は解決に向かっていくということが分かりました。この考え方は、普段の生活では中々得られるものではありません。しかしこの考え方はとても重要であり、普段の生活や、ゼミ、サークル、バイトなどあらゆる場面で活用でき、実践することで自分の能力を更に向上させることにも繋がると感じました。

一日でとても成長できるこのセミナーは大変有意義なものであり、今後、ゼミや社会人基礎、部活動、サークルなどで受講することで仲間同士の信頼関係や、知識をつけることの意味、自分の見つけ直しなど、様々な効果を望めると感じます。

とても将来性を感じる素晴らしいセミナーでした。また機会があったら是非参加したいです。

平成 26 年度利用状況

平成 26 年度の宿泊利用者数は 32,047 人で、前年度が 31,086 人でしたので、396 人の増加でした。

上期は、20,343 人（前年 18,694 人、前年比 108.8%）と、1,649 人の増加となりました。

主な要因は留学生短期滞在応援プランの実施、社会人研修の受注に因るものです。

下期は、11,704 人（前年 12,957 人、前年比 90.3%）と、1,253 人の減少となりました。主な要因は、会員校の大幅な減少です。

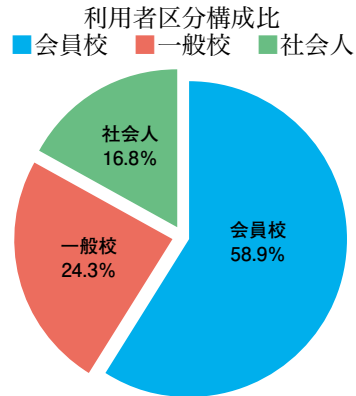
年間では前年比で会員校 95.8%、一般校 101.6%、社会人 125.6%になりました。

27 年度は会員校の利用減少に歯止めをかける方策が必要になります。

◆区分別利用状況

宿泊延人数全体の占める区分別の構成比は右記の通りです。

宿泊延人数				
区分	平成 26 年度		平成 25 年度	
	宿泊延人数	構成比	宿泊延人数	構成比
会員校	18,879	58.9%	19,707	62.2%
一般校	7,778	24.3%	7,654	24.2%
社会人	5,390	16.8%	4,290	13.6%
合計	32,047	100%	31,651	100%



開館 50 周年記念事業寄附金状況

寄付者ご芳名

大学セミナーハウス開館 50 周年記念募金へのご支援を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

今号は 2014 年 10 月 1 日から 2015 年 5 月 31 日までのご寄附を対象に、ご芳名を 50 音順にご紹介いたします。なお、ご芳名の公表を希望されない方につきましては掲載いたしていません。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、くれぐれも宜しくお願い申し上げます。

〈寄附者ご芳名（企業・団体）〉

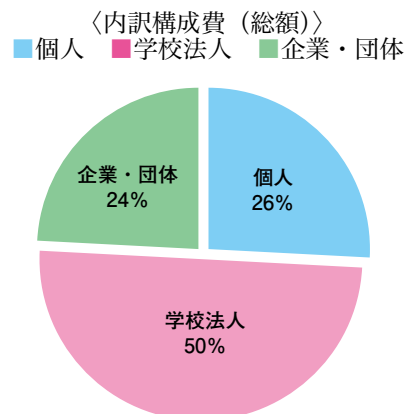
相羽建設株式会社様／倉郷環境対策協議会様／有限会社イシン・ハチオウジ・オペレーションズ取締役マイケル・ニギッチ様／株式会社タカナ様／株式会社三井住友銀行様／東京ケータリング株式会社様／東亜サービス株式会社様

〈寄付者ご芳名（個人）〉

伊藤繁様／伊藤房夫様／荻上紘一様／小峰利男様／外立鉄夫様／程島俊介様／松山正男様

開館 50 周年記念事業寄附金状況 2015 年 5 月 31 日現在

区分	件数	寄附金額（円）
個人	120	3,230,000
学校法人	12	6,150,000
企業・団体	20	2,930,000
合計	152	12,310,000



▲ 緑に囲まれた野外ステージ



▲ 本館前に実ったユスラウメ

○ 会費をありがとうございました (2014年10月～2015年5月) (敬称略)

鈴木俊和、永井克孝(2014年6月ご逝去)、末松安晴、川鍋正敏、小
 林善彦、木畑洋一、稲田 拓、篠崎啓助、慶谷伸代、酢屋善元、田村
 皖司、宇野重昭、熊川 忠、小田中敏男、近藤 保、青木生子、山岸
 健、大須賀節雄、有山正孝、松本幸一、小場瀬純子、小場瀬令二、森 久、横沼健雄、稲持教昭、城 謙輔、岡崎 正、福井憲
 彦、三浦安子、松尾浩也、堀井啓幸、青柳総太郎、山内芳文、後藤敏明、桐原五十鈴、上田明子、生山智己、川端香男里、村上
 健、米満 澄、小谷正博、出光直樹、大澤恵美子、慶谷壽信、鈴木 皇、中村正一、柳澤富男、海老沢信一、佐藤音彦、中野育
 子、川崎正三、並木信一、池井 優、松山正男、佐藤 光、秋間 実、小林一彦、新保清子、泉 敏彦、飯野訓征、肥前榮一、杉
 浦銀治、高松正昭、磯 直道、小和田恆、小幡史朗、柴田泰比古、蓮見音彦、勝見允行、島田治夫、松田信男、佐藤公孝、絹川正
 吉、柳堀素雅子、松澤通生、海老根 宏、箱木眞澄、滝口俊子、加藤晴久、荒井 献、木村建一、太田正孝、芳賀 徹、柏原啓
 一、橋口英俊、林 卓男(2015年3月26日ご逝去)、金子六郎、水谷眞智子、椿 弘次、西澤宗英、奥山典生、犬塚 博、朝野洋一

会員からのメッセージ

- お祝いカードをありがとうございました。残念乍ら永井克孝は誕生
 日を待たずに六月に死去致しました。セミナーハウス設立前からの
 長いおつきあいを心から感謝申し上げます。 妻・永井和子
- ご清栄をお祈り申し上げます。 慶谷伸代
- 大学セミナーハウスのいよいよのご発展をお祈りしています。中
 国とのシンポジウムのため、島根に行っており、送金が遅れ失礼
 しました。 宇野重昭
- 誕生日のお祝いの言葉をいただき、ありがとうございます。大学
 セミナーハウスが果たして来た役割の大きさを思わされます。 熊川 忠
- 大学セミナーハウスの歴史をふりかえる日々です。大きな発展史
 です。 山岸 健
- 今年もまた3月に新3年生のゼミ員を連れて参ります。ハウスの
 雰囲気がとても好きです。 森 久
- 千人会会費御送りいたします。おかげ様で、今年もなんとか無事
 に誕生日をむかえることが出来ました。大学セミナーハウスの一
 層の御発展をおいのりいたしております。 横沼健雄
- ご苦労様です。 稲持教昭
- 無事誕生日を迎えました。千人会費をお送り申し上げます。 岡崎 正
- 千人会会費を送ります。 福井憲彦
- 「自然の中で対話を学ぶ」というセミナー・ハウスの精神が、い
 よいよ保たれ、継続しますよう、お祈り申し上げます。 三浦安子
- パスディカードをありがとうございました。開館50周年とのこ
 と、さらなるご発展をお祈り申し上げます。 堀井啓幸
- 63歳の誕生日、会費お届け申し上げます。 青柳総太郎
- 留学生会館の入居率が高いことを伺い、とても嬉しく思っており
 ます。どうぞ益々の御発展を！ 村上 健
- 前略 千人会会費を送金申し上げますのでお受け取り下さい。不
 悉 慶谷壽信
- 開館50周年おめでとうございませう。セミナーでうかがったことを
 なつかしく思います。益々のご発展をお祈り申し上げます。 中村正一
- セミナーハウスのキャンパスは四季ごとに花が楽しめます、自然との
 調和がすばらしいです。 山梨学院・海老沢信一
- 50周年、お目出度う御座います。大学間の交流から始まり、今や
 留学生、地域の人々、社会人と交流の輪を広げていかれている事
 楽しみです。
- よき働きを願っています。 並木信一
- 開館50周年を心よりお祝い申し上げます。大学セミナーハウスが
 開館以来半世紀我が国に果たしてきた大きな足跡に思いをはせて
 おります。 松山正男
- 是非またうかがいたいものです。 佐藤 光
- 貴セミナーハウスの存在意義はますます大きく高まってきてい
 るように感じております。学生諸君のために今後ともいっそうのお
 力ぞえを賜りますように！ 秋間 実
- 大学セミナーハウスのご健在をお祈りします。80歳になりました。
 肥前榮一
- ますますのご発展を祈り上げます。大学セミナーハウスを利用さ
 せていただいてから、半世紀近い月日が過ぎたのですね。 高松正昭
- 3月11日は私の誕生日、80歳を迎えましたが、東北訪問も5年
 目に入りました。 小幡史朗
- 誕生日(78歳)を迎えることができました。これからも貴セミナー
 ハウスの発展を祈り上げます。 島田治夫
- 大学セミナーハウスの益々のご発展を祈ります。 佐藤公孝
- ハウスの存続により、平和な日本が続きますよう実践(非暴力)
 力のある青年の輩出を期待します。原発事故処理が一日でも早く
 進むことを祈る毎日です。 太田正孝
- 細く長くつづけてきたこの御寄付、いつまで行けるかわかりませ
 んが、50年近くも前に、何度も何度もセミナーハウスで催した学
 生たちとの交歓の集いの楽しかったことは忘れられません。 芳賀 徹
- 夫、林卓男は3月26日死去致しました。91歳。長い間お世話様
 になり、有難うございました。今回最終となります。御発展を祈
 り上げます。 林 安紀子
- 50周年おめでとうございませう。毎年のように研究室一同でおうか
 がって勉強や卓球や毎日楽しく過ごさせて頂きました。私も90歳
 の誕生日をむかえましたが、セミナーハウスの思い出はいつまでも
 忘れられません。今後の一層の御発展をお祈りします。 金子六郎
- 益々の御発展をお祈り申し上げます。 椿 弘次
- セミナーに初参加して50年が経ちました。今でも当時を感懐深く
 思い出します。これからも一層の発展を願っています。 犬塚 博

2015年度開催セミナーのご案内 申込み受付中

大学セミナーハウスでは、国・公・私立大学の学生、教・職
 員の皆様の相互交流と、高等教育・研究の成果を社会に広く普
 及させるために大学共同による各種のセミナーを開催しており
 ます。今年度、すでにいくつかのセミナーは参加者を募集して
 おります。是非参加をご検討ください。

*詳細は大学セミナーハウスのホームページでご確認ください。

■第5回新任教員研修セミナー

日程：8月29日(土)～31日(月)の2泊3日

対象：国・公・私立大学で授業を担当する新任教員(年齢不問)
 多様な(価値観、目的、能力等をもつ)学生に大学教育を受
 ける機会が飛躍的に拡大した今日、学生の意欲を高め、能動
 的な学びを通して自ら課題を発見して解決する力を培うこと
 は、大学教員に課せられた最も重要なテーマです。セミナー
 では国・公・私立大学の枠を越えた合宿形式の相互研修により、
 新たな時代にふさわしい大学教育のあり方を探ります。

■第13回・第14回教員免許状更新講習

科目：必修科目「教育の最新事情」(12時間)
 選択科目「教育内容の充実」(5科目。各6時間)

日程：〈第13回〉12月24日(木)～27日(日)
 〈第14回〉1月20日～(水)23日(土)

対象：幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方

ワークショップでの議論、事例報告、講演、意見交換などの必
 修科目12時間、選択科目18時間の計30時間の講習を4日間の
 短期間で履修できます。必修12時間、選択6時間などの部分受
 講も可能です。宿泊希望の方は宿泊担当窓口にご相談ください。

■留学生論文コンクール2015 テーマ「私が考える地球的問題」

論文応募締切日：10月15日(木)

入選発表日：11月13日(金)

応募資格：日本の大学(学部・大学院等)に在籍している
 留学生

〈今後の募集予定セミナー〉

セミナー名	テーマ	日程
第4回EUセミナー	EUの新たな挑戦	9月18日(金)～20日(日)
第32回大学職員セミナー	大学職員の可能性 ——大学改革を牽引する職員を目指してⅢ——	11月27日(金)～28日(土)

2014年度 開催セミナー報告

セミナー名	開催日	テーマ	講師・企画委員（敬称略）	参加者 （定員）
〈大学生を対象としたセミナー〉				
第3回 EUセミナー	9/19（金）～21（日）	新段階を迎えるEU —銀行同盟、欧州デモ クラシー、安全保障—	アレクサンダー・マクラコラン（駐日欧州連合 代表部政治経済部公使参事官）、渡邊啓貴（東 京外国語大学大学院教授）、小久保康之（東洋 英和女学院大学教授）、田中素香（中央大学教 授・日本E U学会理事）、蓮見雄（立正大学教 授）、押村高（青山学院大学教授）、中西優美子 （一橋大学大学院教授）、福田耕治（早稲田大学 政治経済学術院教授）	71 (70)
デジタルアートセミ ナー#3	10/11（土）～12（日）	openFrameworksで 学ぶクリエイティブ・ コーディング	藤本直明（東京工芸大学非常勤講師）、田所淳（千 葉商科大学非常勤講師）、神田竜（サウンドアー ティスト/プログラマー）、赤川智洋（アーティ スト）	92 (50)
第41回 国際学生セミナー （中嶋嶺雄先生追悼セ ミナー）	11/22（土）～23（日）	アジア・太平洋の歴史 と未来 —国際関係論と地域 研究の視点から—	渡邊啓貴（東京外国語大学大学院教授）、渡辺 利夫（拓殖大学総長）、濱本良一（国際教養大 学教授）、大崎雄二（法政大学教授）、松田康博 （東京大学教授）、山崎直也（国際教養大学准教 授）、澤田ゆかり（東京外国語大学教授）、曾根 康雄（日本大学教授）、伊豆見元（静岡県立大 学教授）、小針進（静岡県立大学教授）、五島文 雄（静岡県立大学教授）、諏訪一幸（静岡県立 大学教授）、名越健郎（拓殖大学教授）、河原地 英武（京都産業大学教授）、井尻秀憲（東京外 国語大学教授）、勝又美智雄（国際教養大学教 授）、中嶋聖雄（早稲田大学准教授）、中本義彦 （静岡大学教授）	87 (40)
〈留学生論文コンクール〉				
留学生論文コンクール 2014	応募締切 10/15 入選発表 11/15	私が考える地球的問題	鈴木康司（大学セミナーハウス館長）、花澤聖 子（神田外語大学教授）、松田康博（東京大学 教授）	38 〈入選〉 金賞1 銀賞2 銅賞3
〈大学教職員を対象としたセミナー〉				
第30回 大学職員セミナー	7/11（土）～12（日）	大学職員の可能性— 大学改革を牽引する職 員を目指してI—	加藤建二（東洋大学入試部長）、松本美奈（読 売新聞東京本社）、近藤清之（法政大学学務部長・ 入学センター長）、山本真一（桜美林大学大学 院教授）、青木加奈子（高崎経済大学教育グル ープ職員）、中山真一（明治大学経営企画部広報 課長）	40 (40)
第4回 新任教員研修セミナー	9/1（月）～3（水）	—	中村淳（電気通信大学教授）、村山光子（明星 大学学生サポートセンター長）、江夏由樹（一 橋大学名誉教授）、菊地滋夫（明星大学教授）、 荒木晶子（桜美林大学教授）、北原和夫（東京 理科大学教授）、史傑（電気通信大学教授）	34 (40)
第31回 大学職員セミナー	11/28（金）～29（土）	大学職員の可能性— 大学改革を牽引する職 員を目指してII—	野見山智道（明治大学経営企画部広報課副参 事）、松坂浩史（文部科学省大臣官房文部科学 広報官）、近藤清之（法政大学学務部長・入学 センター長）、山本真一（桜美林大学大学院教 授）、青木加奈子（高崎経済大学教育グル ープ職員）、中山真一（明治大学経営企画部広報課長）	32 (40)
〈その他のセミナー〉				
第1回 映画制作セ ミナー	8/12（火）～13（水） 〈中止〉	夏休み親子参加プロ グラム「つくって学ぶ映 画のひみつ」	杉原賢彦（慶應義塾大学講師）、秋江守吾人（㈱ kagla 代表、テレビプロデューサー）、井戸剛（㈱ ペドラム：映画制作会社 代表）	申込者 2 (40)
第11回 古代史セミナー	11/8（土）～9（日）	日本古代史・新考 —自由自在（その7）	古田武彦（歴史学者）、荻上紘一（大妻女子大 学学長）	108 (60)
〈教員免許状更新講習〉				
第9回 教員免許状更新講習	8/2（土）～5（火）	教育の最新事情・ 教育内容の充実	安田忠郎（教員免許更新センター長）、高垣マ ユミ（実践女子大学教授）、葛澤元晴（早稲田 大学大学院客員教授）、小川彩子（元米国州立 シンシナティ大学 UCBA 准教授）、山内芳文（筑 波大学名誉教授）、吉田真史（東京都市大学教 授）、山脇由貴子（東京都児童相談センター児 童心理司）—ゲストスピーカー—	70 (70)
第10回 教員免許状更新講習	12/24（水）～27（土）	教育の最新事情・ 教育内容の充実	安田忠郎（教員免許更新センター長）、高垣マ ユミ（実践女子大学教授）、葛澤元晴（早稲田 大学大学院客員教授）、小川彩子（元米国州立 シンシナティ大学 UCBA 准教授）、山内芳文（筑 波大学名誉教授）、吉田真史（東京都市大学教 授）、山脇由貴子（東京都児童相談センター児 童心理司）—ゲストスピーカー—	90 (70)
第11回 教員免許状更新講習	1/21（木）～24（日）	教育の最新事情・ 教育内容の充実	安田忠郎（教員免許更新センター長）、高垣マ ユミ（津田塾大学教授）、葛澤元晴（早稲田大 学大学院客員教授）、小川彩子（元米国州立 シンシナティ大学 UCBA 准教授）、山内芳文（筑 波大学名誉教授）、吉田真史（東京都市大学教 授）、山脇由貴子（東京都児童相談センター児 童心理司）—ゲストスピーカー—	81 (70名)

スタッフ紹介



専務理事 外村 幸雄

6月3日付で大学セミナーハウスの専務理事を拝命いたしました。

就任を機に今年50周年を迎えるセミナーハウスの歴史を紐解いてみました。1968年の安田講堂の攻防、東大闘争時の東大総長大河内一男先生が50年前のセミナーハウス新築落成式の祝辞で『セミナーハウスの取り組みは、その建築群が象徴するように、一つのユートピア運動といってよい』と言っています。

セミナーハウスは高等教育の理想的な在り方を模索し、学生・教職員が大学を超えて生活を共にして人格的に接触する機会を提供しようとしたのです。それは、セミナーハウス設立に関わった大学人たちの夢でもありました。そして、その夢の実現に果たす建物の役割は非常に重要でした。

しかし、50年の時を経て、なお建物と直結した理想を描き続けるには、高等教育を取り巻く環境の変化が大きすぎたのかも知れません。建物の老朽化も進み、大変厳しい状況にあります。

それでも理想を追求した大学人によって設立運営されてきたセミナーハウスの創立の背景、理念に思いを馳せつつ、未だに個性を失わない建物と来年度竣工予定の食堂棟をフルに活用して、高等教育への新たな貢献の在り方を探っていきたいと思っております。皆様のご助言・ご協力のほどお願い申し上げます。



総務グループ課長 今井 隆明

みなさま初めまして。平成27年4月より総務グループ課長になりました今井隆明です。どうぞ宜しくお願い致します。

開館50周年を迎える年に籍を置く事ができ、喜びを感じています。

大学セミナーハウスは、大学を取り巻く環境の変化や学生の行動意識、IT技術の発展等新しい状況の中にありますが、緑豊かな多摩丘陵の自然の中にあつて、大学教育の補完と国・公・私立の大学の垣根を越えた交流を目的として開館され、又社会人にも教育訓練の場として宿泊施設の提供する理念は、不変であると思われまふ。

今後とも大学セミナーハウスがこの理念のもと、維持・発展していける様、少しでも貢献していきたいと思っております。

館長室から

百花繚乱の春、そして夏と、セミナーハウスは一年でも秋と並んで最も美しい自然を満喫できる季節を迎えております。

然しながら昨今の世界を眺めると、この美しい季節とはうらはらに恐るべき動乱、事件が続発しています。テロリスト集団イスラム国や彼らに呼応してチュニジアなどのテロ分子、ウクライナに関して核兵器の使用も視野に入れていると威嚇するロシアのプーチン、イエメンでの騒乱など枚挙に限りありません。

日本と近隣関係を見ても、中華思想の塊ともいべき中国や、いつ暴発するかかわからない北朝鮮など、摩擦の種だらけ、更には領土問題や歴史認識をめぐる中国、韓国との難しい関係が続いております。このような時にはえてして、国粹主義的な勇ましい発言が大向こう受けをしがちであります。首相からして「戦後レジームを変革して日本を取り戻す」と大見得を切りましたし、その尻馬に乗って「八紘一宇」などかつて他国侵略の口実に使われた表現を、あろうことか国会で使った議員など、戦争を経験したことのない世代の発言にはひやひやすることばかりです。

日本人の多くが戦争を知らない世代で占められている今日、また、大部分のメディアが権力におもねって批判を避けている現在、そんな勇ましい議論よりも、国全体を巻き込む戦争がいかにむごく、かつ悲劇を生むか、その恐ろしさを次世代の人びとに伝えるのも戦争を経験した人間の役割ではないかと思ひます。

今日は私自身の体験をお話します。

私が小学校6年生の時に、日本は敗戦を迎えました。小学校を通じてずっと戦争が続き、東京神田にありました家も空襲で焼かれ、焼夷弾による大火災の下を命からがら逃げました。その後、学校からのいわゆる集団疎開で新潟県の石打近くで、下級生たちと生活を共にいたしました。もちろん当時は朝から晩まで軍国主義教育を受けていたのですが、今でも強烈に覚えている出来事があります。

敗戦の少し前でしたか、2年生の某君の父親、この方は当時、軍部の情報機関のトップであります報道局長を務めていたのですが、この方が講演に来られました。敗戦濃厚の戦争末期ですから、当然、ご本人は正確な情報をご存じだったのでしょうが、そのような言葉は一つもなく、『日本列島は不沈艦でありアメリカ軍がどこから来ても水際でたたく、どんなに攻撃されても沈むことはない。君たちは安心して、いつでもお国のために戦って命を捨てる覚悟で、しっかり訓練をしておきなさい。帝国陸軍は負けません』と大演説をぶって帰られました。軍国少年だった私たちは、食べるものもろくにない生活で栄養失調直前のやせっぽちばかりでしたが、その言葉を信じ切っておりました。ところがその僅か2週間ほど後に日本は無条件降伏をいたしました。

敗戦後、日ならずして、この方は2年生だった男の子を夜、ひそかに迎えに来て自宅に引き取り、一家そろって自決されました。私も子供心に大きなショックを受けましたが、両親の反応が真二つに分かれたのが印象的でした。父は、戦争の責任者一家として世の中から爪はじきされ、非難を受けるのが当然だから親として子供だけを残しては可哀想だと思ったのだらうと述べたのですが、母は違いました。子供は親の私有物ではない、子供には子供の人生があり、それを奪う権利は親といえどもないはずだと主張したのです。

この出来事は、現在ほとんど誰も知らない敗戦直後の一悲劇ですが、考えるべき問題は数多くあります。社会全体が戦争一色に染められていた時代、小学校を初め、教育界全体が戦争に協力すべく、軍国主義を信奉していた時代の名残りとして、これを捉えることもできるでしょうし、軍人らしい責任の取り方だということもあるかもしれません。しかし、私が言いたいのは、国全体が戦争していれば、このような悲劇が十分起こり得るということです。ヒトラーの片腕であったゲッベルス一家の服毒自殺がその一例でしょう。また、そのような社会風潮を作り出すには、幼い時からの教育が決定的な影響をもたらします。

当時小学校6年生だった私は現在81歳、本当に戦地に赴いた方々は今や90歳代です。もうしばらくすれば、戦争を経験した人々はいなくなります。刺激が薄かったからイスラム国に行こうとしたなどという愚かな若者を作らないためにも、教育者の方々には頑張っていたいただきたいと思ひます。

第一次世界大戦まで、戦争するのは軍隊の仕事でした。いわばプロとプロの戦いだったのです。それが第二次大戦では非戦闘員を巻き込んだ恐るべき殺戮合戦に変わったのです。広島・長崎の原爆投下、執拗な米空軍の焼夷弾爆撃、沖縄戦の悲劇、ドイツで言えば一夜にして壊滅したドレスデンのじゅうたん爆撃などを思い出します。

戦争をするということがどういうことか若者を育てる教育者の方々によく考えていただきたいと心から思ひます。

館長 鈴木 康司



Plain living and high thinking

セミナーハウス・ニュース No.188

発行=公益財団法人 大学セミナーハウス

2015年6月発行

発行人=鈴木康司 発行部数=3,500部

編集=大学セミナーハウス セミナー・留学生グループ

制作=中山企画